

自閉式上吊り引戸装置（手動開き式）

評価の内容（申請資料に基づき、次の事項を確認している。）

1. 評価対象建築材料

評価の対象とした自閉式上吊り引戸機構（手動開き式）は、標準仕様書 16章 10節に規定する自閉式上吊り引戸装置とし、主として身体障害者等の利用を配慮した一般庁舎等の事務室出入口、屋内用・屋外用の便所の出入口等に使用するものを対象としている。

2. 品質・性能等

品質・性能は、標準仕様書との整合の他、以下の内容を、実施要領に規定する試験機関等による試験結果等で確認している。

| 項目 | 品質・性能 | | |
|--------------------------|---|-----------------------|----------------------|
| 開閉力 | 適用の区分 | 手動開き力（初動時。扉が円滑に開くこと。） | 手動閉じ力（ストッパーの開放力を含む。） |
| | 40kg以下 | 15 N以下 | 15 N以下 |
| | 40kgを超え80kg以下 | 20 N以下 | 20 N以下 |
| | 80kgを超える | | |
| 閉じ速度の調整 | 車椅子が安全に通過できるようにストッパー（全開時または中間）または一時停止装置を持つか、自閉装置の自動閉鎖時間の調整が行えること。 | | |
| 制動区間 | 閉まり際（概ね80mm～200mm）で明らかに減速し、手などを挟まれにくい安全性能を持つこと。 | | |
| 開閉繰返し | 20万回の耐久試験で、上吊り装置、振れ止め装置、自閉装置および制御装置に異常（戸のがたつき、走行異常、異常音、開閉力等品質性能の評価基準外れ）がないこと。また、その他の制御装置は2万回以上の耐久性能を持つこと。 | | |
| 吊車、吊ボルトおよびパネル接合部における引張強度 | 吊車、吊ボルトおよびパネル接合部における引張強度がメーカーの設計強度以上であること。 | | |
| 発声音 | 開閉操作時に金属どうしの摩擦音などの不快音を発生しないこと。 | | |
| 耐衝撃性 | 1回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に支障がないこと。 | | |
| 屋外用装置の主要材料 | 各装置の主要構成材は、SUS304、SUS430J1L、SUS443J1、アルミニウム製等、防錆性能を有する材料とする。 | | |
| （建具の）防火性能 [付帯性能] | 防火性能を有するものについては大臣認定書等に基づき確認を行う。 | | |
| （建具の）気密性 [付帯性能] | 気密性能を有するものについては試験成績表による確認を行う。 | | |

3. 試験

- (1) 1. 開閉力の試験方法は、JIS A 1519 (2020)「建具の開閉力試験方法」の「6.4 a) 開き力確認試験」、同「6.4 c) 閉じ力確認試験」による。
- (2) 開閉繰返しの試験方法は、JIS A 5545 (2021)「サッシ用金物」の「7.1 戸車の試験」に準じる。ただし、閉については外力によらず、試験体の自閉装置および制御装置のみにより扉を開端位置から閉端位置まで作動させる試験装置にて行う。開閉繰返しの試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ 2,000mm、幅はシリーズ中最大寸法とする。適用戸総質量の区分ごとに試験を行い、仕様はシリーズを代表するものとし、質量はシリーズ中最大質量のもので付属部品、装置を全て含むものとする。また、自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとする。その他の制御装置については、メーカーの耐久性能試験成績表において2万回以上の耐久性能を確認できるものとする。
- (3) 耐衝撃性の試験方法は、JIS A 1518 (1996)「ドアセットの砂袋による耐衝撃性試験方法」に準じ、総重量30kgの砂袋を用い、落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分ごとに試験を行い、仕様はシリーズを代表するものとし、質量はシリーズ中最小のもので付属部品および装置を全て含むものとする。
- (4) 気密性能については、JIS A 1516 (1998)「建具の気密性試験方法」による。